

夢見るホッケー教室

supported by  損保ジャパン



In 沖縄 実績報告書

趣 旨 沖縄県の高校生やホッケー未経験者に向けて、ホッケーオリンピックより、ホッケーの楽しさを伝えるとともに夢や希望を与える。
また、県内の幼児・小学生に対し、コロナ禍のためスポーツをする機会が減少している状況を踏まえて、改めてスポーツの楽しさを伝える。

主 催 (公社) 日本ホッケー協会

共 催 沖縄県ホッケー協会

期 日 令和4年10月29日(土)・30日(日)
① 令和4年10月29日(土) 午前/午後 高校生男女
② 令和4年10月30日(日) 午前 幼児・小学生・一般

場 所 沖縄県立北山高等学校グラウンド

〒905-0424 沖縄県国頭郡今帰仁村字仲尾次 540-1

参加者 ①北山高校、辺土名高校、首里高校 42名
②幼児、小学生 13名
③一般 16名

参加費 無料

講 師 清水 美並 (リオオリンピック代表)
富田 恭平 (J-STAR プロジェクト実施副責任者)
山下 彰子 (元日本代表)

その他 新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施する。

担当 島袋 雅史

○教室内容

令和4年10月29日（土）

9:00 w-up アクティビティ（リズムリフティング）

9:30 Pod でドリブル（認知→判断の練習）

10:00 ベーシックスキルトレーニング

- ① プッシュパスの基本、ヒットストロークのフォーム確認
- ② 3D スキル

11:20 ミニゲーム

- ① 歩く（声でのコミュニケーション）
- ② サイレント（身体でのコミュニケーション）
- ③ なんでも OK（あらゆる手段でコミュニケーション）

* 「みる」ことを意識

12:00 お昼休み

13:30 リズムパス

14:00 ゲーム（75yd）

* 講師も一緒に

15:20 講師に質問タイム

* いろんなことを教えてもらおう

16:00 終了

令和4年10月30日（日）

9:00 未経験の幼児から小学生

Pod で w-up

スティックを試してみよう

ドリブルを試してみよう

シュートを打ってみよう

元日本代表と一緒にゲームを試してみよう

10:00 高校生・一般

① Pod でドリブル

② ストロークの基本、2v1→3v3（増えていく対人）

③ シュートスキル（さまざまなシュートスキルを習得、3Dスキル）

11:30 ゲーム

12:00 終了

○所感

島袋 雅史様（沖縄県ホッケー協会強化部部長）

今回は2日間、高校生と一般（成年・児童・生徒）を対象にホッケー教室を行いました。高校生にはユニークなアップ方法、基本的なストローク・ドリブル技術、ゲーム形式での指導とトップ選手と指導者の方々から指導いただき、生徒と指導者も多くの刺激とモチベーションの向上が見られ、個別の指導では時間がオーバーする程生徒達のホッケーに対する気持ちとやる気が見る事ができました。

児童生徒には初めてスティックを使って楽しくホッケーに親しんでもらいました。一生懸命ボールを追いかけている姿を見て、今後も継続できるようにしたいと感じました。

本県でトップの指導者が来沖して直接指導していただく機会がほとんどなく、今回の教室で多くの学びと気づきがありました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

講師：清水 美並（リオオリンピック代表）

沖縄の子たちはすごく意欲があって、最後の質問タイムでもいろいろな質問をしてきてくれたので、向上心があっていいなと思いました。小さい子たちの部では、最後に楽しかった！もっとやりたい！という声を聞いたので嬉しかったです！

2日目は高校生と一般の方と合同でゲームをりましたが、いい雰囲気の中で年齢関係なく楽しんでおられたのでいい関係性だなと思いました。

沖縄でのホッケー教室は、講師にとってもとても楽しめました。ありがとうございました。

講師：富田 恭平（J-STAR プロジェクト実施副責任者）

外部から指導者が来てくれた事をすごく喜んでいたので印象的、来てくれないと思ってたのかな。子ども達もホッケーに情熱的でポテンシャルの高い選手が多いので継続して続けて欲しい。だが、高校生以降のホッケーを続ける事に対してハードルが高い物に感じている様に思えた。何か情報を提供するなどの繋がり、サポート体制があればいいのかもしれない。

講師：山下 彰子（元日本代表）

今回、沖縄でのホッケー教室を行い、1日半という短い時間を、選手の皆さんの積極性や意欲のおかげで、足りなくなるほどでした。高校生からホッケーを始める子たちばかりで、中にはスティックを握ってまだ3ヶ月ほどの子たちもいました。そしてグラウンドはクレイコート。そんな中、指導しながらも選手のポテンシャルが高いことと、学んだことをすぐに吸収・実践していく姿を見て、この事業がとてもプラスになっているのを肌で感じました。

そして、高校生だけでなく未経験の幼児や小学生の子供たちも参加してくれて、ホッケーの楽しさをたくさん伝えることができましたし、またやりたいという声も聞けてとても嬉しかったです。この事業を行なって終わりというわけではなく、次につなげられるよう、地域と一緒にホッケーの普及活動に取り組めたらと思っています。この事業に携わっていただいたみなさん、本当にありがとうございました。

○教室風景





